

つれづれの思い

野口 嘉弘

私は一九四四年四月、長崎市出来大工町で生まれました。先祖は江戸時代から長崎に住んでいました。家には江戸時代の過去帳が有ります。お寺は光源寺で墓地は寺町・皓台寺の上の方で楠本タキ・イネの墓より少し下の所に有ります。さだまさしの映画「解夏」で、主人公が石段を降りてきて長崎の歌「デンデラリユウ」を歌っていたレンガ塀の近くです。もう一つ親戚の墓が有ります。小供の頃行つてあまり良く覚えていませんでしたが、最近教えてもらいました。その場所は寺町より亀山社中跡に行く「龍馬通り」で石段を登り十段目位の右側、深崇寺の墓地内に有りました。広さや作りでここが本家の墓だと思えました。法名の数が四十ぐらいもありました。

江戸時代から祖父までは大工職です。市内の木造家屋を壊す時に、棟札に棟梁名、「野口〇〇」と記した物が浜町の「タナカヤ」と、出来大工町の「若杉さん宅」から、出てきたと聞いています。



福澤先生使用の井

出来大工町の実家は、電車通りから裏通りまでの土地で、裏通りの玄関横には、「福沢諭吉使用の井戸」が有ります。諭吉は桶屋町の光永寺を出てより高島秋帆の弟子の砲術家で長崎両組の地役人山本惣次郎宅に住んでいましたが、その時使用していた井戸なのだそうです。その山本惣次郎宅はどこだったのでしょうか。この裏通りを俗称『町司町』と言っていました。

あり、その説明文を毛筆で書いてたのが父なのです。外側の石碑には、祖父の名前や町内の落合さんなどの名が有ります。昭和三十一年と四十五年の「くんち」のとき「山高帽・黒紋付に羽織り・白足袋に草履、それに唐人パッチ」の父の姿を覚えてます。

二軒となりの喫茶店「アレンジ」の若杉さんは、竹ん芸で有名な若宮稲荷神社と関係があります。延宝元年（一六七三年）乙名の若杉喜三太が自邸に祀っていた南北朝時代の楠木正成公の守護神（稲荷大神）若宮稲荷五社大明神を伊良林に移して創建されたそうです。それで今でも十月の若宮竹ん芸の時には、若杉さん宅へ招待状が来るそうです。

私は佐世保市の三川内焼白泉窯の「なかよし唐子」が好きです。伝統的絵柄の男の子にオリジナルの女の子を取り入れてあり、手書きにこだわって子どもらしい表情や仕草で、ひとつ、ひとつ微妙に絵柄が違ってきます。白泉窯の古い作品は底に白泉のサインが書いてありましたが最近の物には武則さんの「タケ」に蝶の絵が書いてありました。

今年の五月、三川内の陶器市に行つた時、喜久房窯に白菜の形の香炉が有りました。「辻田白菜」とか「長与白菜」とか言われていました。まんだらニュースの二月号に「辻田白菜」が書いてあるのを思い出して、インターネットで調べると長与町高田郷の百合野団地の中に「辻田白菜発祥の地」の記念碑があるのを見つけました。長崎の唐菜が品種改良されて、長崎白菜はつくられたそうです。白菜は漬け物やその他の料理に使用されていたので昔から長崎にあったと思っていました。

先日、映画「釣りバカ日誌16」のロケがありました。その中にも「三川内焼」が出てきます。どこの窯の作品かは不明ですが、映っている陶磁器は三川内焼です。長崎に関係ある映画にアニメーション映画「NAGASAKI・1945・アンゼラスの鐘」があり、原爆投下後、かろうじて生きた人々と共に試練に耐え、医学の可能性と人間の無力さを感じながら、治療活動を行なった、秋月辰一郎医師とその周辺が描かれています。この二つの映画は、今年八月・九月に上映されました。

(長崎歴史文化協会協力員)

それは馬町側の崖下あたりで、享和二年（一八〇二年）の地図によると、町司役人が住む長屋になっていました。

福沢諭吉の福翁自伝によると小出町？となつていますが、註で『大井手町、一時は町司町ともいった。現在は出来大工町と称している。』と書いてあります。

ここにある碑の文字は慶應大学教授の小泉信三先生の書です。昭和十二年、長崎三田会建立となっています。

出来大工町には、江戸末期と明治初期の地図が有ります。今年の三月に見せてもらいました。二畳ほどの物でした。地図の宅地には番地・姓名・門口・奥行・坪数が記してあり、明治の地図には四代前の名前「野口喜平次」の家が二軒と「有三」の家が一軒ありました。喜平次はのちに喜左衛門、有三は有助と改名しています。この地図を調査、記入した時の役職は町の小頭になっていました。

家の作りは、長崎くんちの時、庭見せが出来るように、当時は電車通りから中庭まで表戸やふすまを外すと座敷まで筒抜けだったそうです。二階は手摺「デンジ」作りになり、今も「尾垂れ」もついています。電車が通り、道路が拡張される前までは、立派な庭が家の入口にあつたそうです。今も其の庭にあつた石灯籠と手水鉢が残っています。電車通りになった時、大正七年三月十九日家の前二十坪を道路にゆずっています。

本家の伯父さんが実家に来た時、三浦按針と言われている掛軸と外輪船・觀光丸の見取図の巻き物を見せてくれました。三浦按針の掛軸は羽織り袴に刀を二本差していました。本当の三浦按針の画像ではないようですが。

出来大工町の川端には、不動堂や唐船海上安全祈願燈、桃溪橋、石灯籠などがあります。不動堂内に『出来大工町不動堂の由来』の掲示額が

風信

〇十二月と言えば私達は先ず十二月十五日「赤穂義士の討入」の事を思い出す。その前日、武林唯七は「あした待たる其の宝船」と付句されたという。私達も来年は其の宝船を待つと致しましょう。

〇先日、長崎一、あでやかな第七回「全国ぶらぶら節歌謡大会」が今年も賑やかに終了しました。大賞のトロフィは三重県尾鷲市の渡辺二三子さんが受賞された。東京から来られた審査委員長の小島美子先生が「長崎の人は本当に気まじめでぶらぶら節には色気が少し」と笑って講評されていた。

〇熊本県大津町西村和正氏（熊本近世史研究会）より、「カライモ（薩摩藩）を我が国に最初にもたらし栽培したのは熊本県鹿本町出身の池田好運で、彼は慶長五年（一六〇〇）長崎を出港し甘藷の種芋を持ち帰った」と「肥後山鹿古今聞覚」を引かれて新説を発表されている。（従来は一六一五年平戸イギリス商館長コックスが最初持ち渡つたとされてきた。）面白いですね。

〇本会の運営委員餅田健氏並びに緒方源信先生、本年度発表された文芸作品により長崎県文芸協会より協会賞を受賞された由連絡あり、心より御慶び申し上げます。

〇長崎刺繍伝統の第一人者加勢照太御夫妻・来訪され「ロンドンに江戸時代長崎で作られた万屋町傘鉾に刺繍された魚尽くしの絵が発見された由連絡を受けたので近日中にロンドンに行く予定です」と言われた。調査報告を楽しみにしています。

〇東京の馬田智夫氏より長崎の名家の一ツ馬田家の事を一筋に八年間考究され、「馬田氏風説書」が完成しましたの連絡あり、一昨日その本を御恵送いただいた。其の執念には、まったく感服し熟読させて戴いた。

〇年末年始の本会は十二月二十八日午後三時半終了。一月六日午前九時半事務所を開きます。

皆様、よき御年を御迎え下さいませ（事務局 一同より）

長崎歴史文化協会研究室

TEL 八二二一五四〇
十八銀行公会堂前出張所 二F

